

2007年センター報告・日誌

* ギールケ文庫保存事業

昨年に引き続き、一橋大学後援会より奨学寄付金の助成を受け、ギールケ文庫の保存修復作業を行った。全資料に対する劣化調査を継続すると共に、保存修復作業が必要な資料に対しては、保革油塗布、保護ジャケット・保存容器の作製、ページ修理、保存製本等の処置を施している。こうした保存修復作業は、製本家・書籍修復家からの指導を受けながら、センター内に設置されている貴重書保存修復工房のスタッフにより行われている。

* フランクリン文庫総目録作成およびデータベース化事業

昨年に引き続き、125周年記念学術・保存事業振興基金の助成を受け、目録のデータシート作成およびデータベースへの入力を行った。これらの作業は2008年3月に終了予定。

* ギールケ文庫の遡及入力事業

2006年2月より、研究拠点形成費補助金(21世紀COEプログラム)により、関連する資料の整備と公表のために、ギールケ文庫のうち分類K(教会法)およびV(国際法)、S(国家法等)約1400冊についての書誌、所蔵データの遡及入力、NACSIS-CAT総合目録データベースにオンライン登録する作業(業務委託)を行った。2007年度は分類Sを約130冊遡及入力した。

第8回西洋古典資料保存講習会

下記の内容で、7月23日(月)から7月25日(水)までの3日間開催し、全国の国公立大学図書館等から8名参加で、実習を中心に行った。

- | | |
|---|----------------------|
| 1. 保存計画のための材料と環境 | 増田勝彦(昭和女子大学教授) |
| 2. 劣化調査と保存計画 | 木村雄一(社会科学古典資料センター助手) |
| 3. 製本構造、調査票の活用、クリーニング、
保存容器、保存製本、書見台 | 岡本幸治(製本家・書籍修復家) |

第27回西洋社会科学古典資料講演会

下記の内容で、11月6日(火)から11月9日(金)まで4日間開催し、全国の国公立大学図書館等から31名が参加した。

古典研究

- (1) 転換期ジュネーヴに見る知のインターフェイス—社会科学文献の翻訳、出版、紹介を中心として—
喜多見洋(大阪産業大学経済学部教授)
- (2) 同時代人としてのドイツ観念論者たち
岩佐 茂(一橋大学大学院社会学研究科教授)
- (3) ヴィクトリア後期における中世主義とジェントリーの帝国性—絵画に見られる時代思潮—
深貝保則(横浜国立大学経済学部教授)

書誌学

- (1) 記述書誌を“読む”面白さ：図書館員のための書誌学入門
武者小路信和（大東文化大学文学部准教授）
- (2) タイトルページを読む楽しみ
—九州大学附属図書館「ラテン語古刊本書誌作成研修会」の活動から—
渡邊由紀子（九州大学附属図書館コンテンツ整備課電子情報係長）
- (3) 17世紀イギリスの新聞
石井 健（北海道教育大学准教授）

保存・修復

- (1) 貴重書コレクションの保存
安江明夫（国立国会図書館顧問）
- (2) 西洋古典資料の保存と製本
岡本幸治（製本家・書籍修復家）

社会科学古典資料センター見学（書庫・所蔵資料・貴重書保存修復工房）

日誌（2007年1月～12月）

- 5月31日 第7回社会科学古典資料センター専門委員会
議題：1 第6回社会科学古典資料センター専門委員会議事要録について
2 平成18年度事業報告について
3 平成18年度決算報告について
4 平成19年度事業計画について
- 3月31日 一橋大学社会科学古典資料センター年報 第27号発行
Study Series No. 57：西願広望
『フランス王政復古期における革命認識—小冊子の分析から—』発行
Study Series No. 58: Bjorn Thalberg, Hitoshi Hashimoto
『Knut Wicksell's Forteckningar (Lecture Registrants) & Dagbocker (Lecture Reports) during 1900-1916 at Lund University』発行
- 7月23日～25日 第8回西洋古典資料保存講習会開催
7月～8月 蔵書クリーニング，蔵書移動および蔵書点検
- 10月24日 第8回社会科学古典資料センター専門委員会
議題：1 委任経理金申請，左右田文庫保存修復事業（案）について
2 メンガーのデータベース科研申請について
- 11月6日～9日 第27回西洋社会科学古典資料講習会開催

利用状況（2007年1月～12月）

開館日数	227日
利用者	181人
（学内）	96人
（学外）	22人
（文献複写）	63人
利用冊数	988冊
複写冊数	67冊